

## 投稿規定

# 「野生復帰」投稿規定

本誌は、広く野生復帰及び人と自然の共生に関する原著論文・総説・短報・報告・資料等を掲載する。

なお、掲載された論文の著作権は、編集委員会に帰属する。また、掲載された論文は、本誌のウェブサイト (<http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/journal/>) においてダウンロードできる形で公開する。

### A 投稿案内

投稿者は、「投稿規定」を熟読の上、最新号を参照し、これらに従って原稿を執筆すること。

#### 1 「野生復帰」の内容

冒頭に記した分野・内容で未発表の原著論文・総説・短報・報告・資料、その他編集委員会が適当と認めたものを掲載する。

#### 2 投稿の手続き

連絡著者氏名(よみ)、所属、投稿原稿のタイトル、原稿の種類を電子メールの本文中に明記し、投稿原稿(図・表を含む)の電子ファイル(MS-Word形式またはPDF形式)を添付ファイルとして提出すること。図は判読・判別が容易なものとすること。原図・原表は、受理後に所定の形式(画像ファイルあるいはMS-Excel形式)のものを送付すること。

#### 3 カラー図表等の掲載

カラー図表等の掲載に伴う経費はすべて著者が負担すること。その額については、編集委員会に問い合わせること。

#### 4 原稿の送付先および問い合わせ先

〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128番地  
(兵庫県立コウノトリの郷公園内)

「野生復帰」編集委員会

Tel. (0796)23-5666 Fax. (0796)23-6538

E-mail: [journal@stork.u-hyogo.ac.jp](mailto:journal@stork.u-hyogo.ac.jp)

#### 5 査読制度

原著論文・総説・短報の原稿は、編集委員会が委嘱する2名の査読者によって、報告・資料等は、同じく1名の査読者によって査読される。

#### 6 論文掲載の可否判定

原稿の「野生復帰」への掲載の可否は、査読者の意見を参考に編集委員会が決定する。査読の結果を踏まえて編集委員会から投稿者に修正を求めることがあ

る。掲載不可と判定された原稿については投稿者にその理由を通知の上、原稿を返却する。

#### 7 原稿の受理

編集委員会により掲載可と判断された日付をもって受理日とし、受理通知を送付する。

#### 8 印刷原稿の提出

印刷原稿・原図・原表の提出は原則として電子ファイルにより、受理通知時に編集委員会が指定する様式・方法に従うものとする。

#### 9 校正

著者による校正は初校のみとし、その後の校正は編集委員会で行う。初校への大幅な加筆、内容の変更は認めない。

#### 10 別刷

印刷原稿の提出にあわせて、著者は別刷りの必要部数を連絡する。別刷にかかる費用は全て著者の負担とする。

### B 用語

1 和文原稿は英文要旨・英文キーワードを除き和文とする。英文原稿は、和文要旨・和文キーワードを除き英文とする。

2 文体はひらがなと漢字による口語常態(だ・である体)とし、現代かなづかいを用いる。固有名詞で読み誤るおそれのあるものには漢字の後に丸括弧で括ったふりがなをつける。

3 句読点は全角の「,」と「.」を用いる。

4 数字はアラビア数字(半角)を用いる。単位は原則として国際単位系 SI units (Système Internationale d'Unités) に従う。ただし、専門分野で慣用されているものはこの限りではない。

5 固有名詞や学界で慣用の述語を除いて、常用漢字を使用する。

6 生物名を英文で記述する際には、各単語の先頭を大文字にする。

### C 原稿の構成

#### 1 原著論文および総説

原稿には、欄外右上にページ番号を記入する。本文に対する注は通し番号をつけて本文の最後にまとめ、

脚注は使用しないこと。その他の原稿の体裁は以下の

1)~6)の順とする。

1) 表題

原稿第1枚目、左上に簡略表題(20字以内)、続いてセンタリングして表題、著者名、英文表題、英文著者名を書く。1枚目の下部に「欄外」として和文所属・所在地、英文所属・所在地を書く。E-mailアドレスの記載を希望する場合には、英語で *corresponding author* の姓名とそのアドレスを英文所属・所在地の後に記す。

2) 英文要旨 (Abstract) と英語および日本語キーワード

原稿第2枚目には200語以内の英文要旨 (Abstract) を記す。英文は著者の責任において正しい英文にして提出する。要旨の下にアルファベット順に6つ以内の英語のキーワードをつけ、次の行に同じ順で日本語のキーワードをつける。

3) 本文

本文は第3枚目から書き始める。

4) 謝辞

謝辞の位置は本文末と文献の間とし、研究助成金等の記述については謝辞の最後に記載する。

5) 摘要

謝辞の次に、論文の内容を簡潔にまとめた400字以内の摘要をつける。英文の原稿の場合も摘要は和文で作成する。

6) 文献

2 短報・報告・資料・その他

原著論文の体裁に従った原稿と、下記の体裁に従った原稿のどちらかを、投稿者が選択することができる。ページ番号・注については原著論文と同じ。その他の体裁は、1)~5)の順とする。

英文の原稿には、和文表題、和文要旨を添える。

1) 表題 原著論文と同じ。

2) 和文要旨とキーワード

原稿第2枚目には400字以内の和文要旨を記し、要旨の下に五十音順に6つ以内の日本語キーワードをつける。

3) 本文 原著論文と同じ。

4) 謝辞 原著論文と同じ。

5) 文献

D 原稿用紙と書き方

1 原稿は、A4用紙に横書きで、文字サイズは10ポイントとし、上下左右に3cmの余白を設ける。

2 和文は1行40字×1ページ25行、英文は1ページ25

行で記述する。

3 章のタイトルには番号を付けない。前を2行、後ろを1行あける。

4 節のタイトルには 1. の形式で番号を付けるか、もしくは番号を付けない。前を1行あける。

5 項のタイトルには 1-1) の形式で番号を付けるか、もしくは番号を付けない。

E 図表の書き方

1 図表は本文中に入れずにそれぞれA4用紙の別ページとする。

2 写真を図表として掲載する場合、そのままで印刷可能な電子ファイルとして提出する。あるいは印刷面のサイズに合うようにレイアウトし、白い台紙に貼る。なお、「野生復帰」の印刷面のサイズは最大で17×24cmである。

3 図表は刷り上がりでA4版以内とし、1枚に収まらない表はそれぞれがA4版に収まるように複数ページに分割する。

4 図の説明文(キャプション)は、別紙にまとめ、本文の後に付ける。説明は、和文または英文で記述すること。両者を併記することもできるが、いずれかのみを使用する場合は、一報文中では統一をとること。また図表中の使用言語は著者の判断に委ねられる。ただし、この場合も一報文中では統一すること。

5 それぞれの図につき、欄外右上に番号、著者名およびおおよその希望印刷サイズ(cm×cm)を付す。

6 やむを得ない場合を除き、表には縦罫線を使用せず横罫線のみで作成する。

7 本文中に引用されない図表類を掲載してはならない。

F 文献の引用

本文中の文献の引用は次の例に従う。また、著者が3名以上のものについては「-ほか」または「-et al.」とする。

Ewen et al. (2012) は-

これらの研究(Beck and Beck 1994; 小林・中村 2011)によると-

-再導入生物学を提唱した(Seddon et al. 2007)。

-希少鳥類の研究がある(山岸 2007, 2009a, 2009b)。

G 文献

1 本文ならびに図表中において引用した文献は「引用文献」として本文末に一括し、著者名がアルファベット順となるよう配列する。同一著者による論文は年号

の古い順とし、同年の論文については年号の後に小文字のアルファベット (a, b, …) をつけて区別するものとする。

2 引用文献は本文および図表中に引用されたものに限られ、かつ引用されたもの全てを掲載しなくてはならない。

3 引用文献欄は英文と和文で体裁が異なる。下記の例にならって記載すること。

論文の場合

Seddon PJ, Armstrong DP, Maloney RF (2007) Developing the science of reintroduction biology. *Conservation Biology*, 21: 303–312.

小林 篤・中村浩志 (2011) ライチヨウ *Lagopus mutus japonicus* の餌内容の季節変化. *日本鳥学会誌*, 60: 200–215.

書籍の場合

Ewen JG, Armstrong DP, Parker KA, Seddon PJ (eds) (2012) *Reintroduction Biology, Integrating Science and Management Conservation Science and Practice*. John Wiley & Sons, New York, 512 p.

山岸 哲 (編著) (2009) *日本の希少鳥類を守る*. 京都大学出版会, 京都, 364 p.

書籍の中の当該著者執筆部分の場合

Beck BB, Rapaport LG, Sanley Price MR, Wilson AC (1994) Reintroduction of captive-born animals. In Olney PJS, Mace GM, Feistner ATC (eds) *Creative Conservation*. Chapman & Hall, London, pp. 265–286.

山岸 哲 (2007) わが国における野生鳥類の保全に関する問題点—レッドデータブック (RDB) を中心として—. (財)山階鳥類研究所 (編) *保全鳥類学*. 京都大学出版会, 京都, pp. 1–10.

4 ウェブサイト等の引用について

ウェブサイト上で公開されている情報の引用については文献欄の後に「付記」として URL (ウェブサイトのアドレス) を掲載するものとする。ただし、公表年が明らかで論文・報告書等が PDF 形式のようにページ数が確定した形式で公開・出版されている場合には一般の文献と同様に本文中で引用の上、文献欄に掲載し、URL を角括弧でくくって各文献の最後に示すこと。なお、受理の段階でアクセスできるものの引用に限る。

2011年4月1日制定

2012年12月31日改訂